オリーブ油文献　８４－３

標　　題：A Simple Dietary Questionnaire Correlates With Formal Dietitian Evaluation and Frequently Identifies Specific Clinical Interventions in an Outpatient Gastroenterology Clinic.
消化器病の外来診療所で、簡単な食事アンケートは正式な栄養士の評価と相関しそして特定の臨床的介入を確認することが多い

著　　者：S. M. Dubin, et al.（米国　VA San Diego Healthcare System
医学・栄養・保険業務研究開発部）

掲　載　誌：J. Clin. Gastroenterol. 2016 Apr 16 〔先行する電子出版）
〔冊子版は J. Clin. Gastroenterol.　2016 Sep;50(8):e71-6〕

要　　旨：

背　　景：　肥満と関連する消化器関連疾患の領域が拡大している。
臨床医が指導する食事カウンセリングで助けとなる臨床的手段は少ない。

目　　標：　(1) 消化器疾患の原因となる食事要因に関する情報を提供して地中海食事の順守を評価するための、１ページの食事歴の書式を開発し正当性を立証する；および(2) 臨床的手段としての実用性を判定するために、一般の消化器診療所でその書式を評価する。

研　　究：　１ページの食事歴の書式を開発し、登録栄養士による正式な食事評価と比較して質的および量的な評価を実施した。
次にその書式を一般の消化器診療所に通院する継続患者で評価して、全般的な食事内容、地中海食事の順守、および高リスク(危険信号)の食事行動の存在を分析した。

結　　果：　その書式を 134 人の患者で評価した。
検証コホートで(n=30)、測定した質的な食事成分は正式な食事面接と強く一致した。
１日の総カロリー摂取は正式な食事面接と相関したが(R=0.61)、一食分の低い精度のため総カロリーを低く見積もる傾向であった。
追跡コホート(n=104)の患者は、平均 BMI が 29.8 であった。
全体として、52.9%が肥満で、50%はメタボリックシンドロームで、そして51%は食事要因によって直接影響される原発性の消化器疾患（胃食道逆流、過敏性大腸、脂肪肝）であった。
全体として、患者の 85.6%が危険信号の行動を記録した。
肥満の患者は、過体重または正常 BMI 群とよりも危険信号が多い傾向であった。

結　　論：　１ページの食事アンケートは正式な食事評価と良く相関し、そして高い割合の消化器患者で臨床的に妥当な食事介入を確認した。